



CELEBRATE
ROTARY



ロータリーを 祝おう 100年の歩み

2004～2005年度 国際ロータリーのテーマ

第2560地区
ガバナー — 横山 芳 郎
会 長 — 渡 邊 喜 彦
会長エレクト — 小 越 憲 泰(クラブ奉仕A)
副 会 長 — 渡 辺 勝 利(クラブ奉仕B)
幹 事 — 五十嵐 寿一
S A A — 船 越 正 夫
会 計 — 荻 根 澤 隆 雄

例 会 日 — 毎週水曜日 12:30～
例会場及び 事務局 — 三条市旭町2-5-10
三條信用金庫本店内
例 会 場 — TEL 35-3311
事 務 局 — TEL 35-3477
FAX 32-7095

E-mail: sanjo-ss@web-niigata.ne.jp
web: http://www.soho-net.ne.jp/rotary/
(はshiftを押しながら“へ”のキーを押してください)



本日の出席会員数	66名中 50名
先々週出席率	87.10%

ヴィジター
三条北より
山上茂夫さん、星野義雄さん、
斎藤 正さん、中條耕二さん

ゲ ス ト
三条保育所 所長 澤 康子様

先週のメイクアップ
9/6 高田東RCへ
加藤紋次郎さん
9/13 三条南RCへ
小越憲泰さん
9/13 高田東RCへ
加藤紋次郎さん

会 長 挨拶

渡邊喜彦 会長



みなさんこんにちは。稲刈りもだ
いぶすすみ少しずつ秋らしくなっ
てまいりました。本日は、三条北ロ
ータリークラブから斎藤会長さん、
中條耕二さん、星野さん、山上さん、
そして長岡技術大学 牛さん、よう
こそおいでくださいました。

また、本日卓話をお願いしていま
す三条保育所所長さんの澤康子様、どうぞよろしくお
願い致します。

さて、大阪府池田市での児童殺害の犯人宅間被告が、
本人の希望もあり早々の死刑が執行されました。本人
の謝罪が無いままで終わるのは、殺された御両親にと
っては大変残念なことと思います。また、栃木県の小
山で起きました幼い兄弟の殺害についても、非常に残
念な結果となってしまいました。どうして罪のない無
抵抗な子供を簡単に殺してしまうのでしょうか。これ
らも皆親としてのあり方や、夫婦の問題などが背景に
あると思います。また、昨日の報道では、最近きちっ

とした職業に就く若者が減り、不安定なフリーターなどという職業を選ぶ若者が多くなっているとのことです。

日本は、今とんでもない方向に突き進んでいるのではないかと心配です。

われわれロータリーも活動を通じて、改めて命の大切さと人間の人生とはいかにあるべきかを厳しく訴えていかなければと思う次第です。

本日は、このたび2005～6年度2560地区ガバナーノミニーになられます北ロータリークラブの中條耕二さんと、北クラブの齋藤会長さんがおいでになられております。これから御挨拶を頂きますのでよろしくお願ひいたします。

幹事報告

五十嵐寿一幹事

次週9月22日(水)の例会は休会になりますのでお間違ひのないようお願い致します。

三条ローターアクトクラブより
クリーン作戦のご案内がとどいております。
と き 9月19日(日)AM9:00～
集合場所 三条市四日町原信駐車場

三条市青少年育成市民会議より
青少年関係団体との懇談会についてご案内がとどいております。
と き 10月15日(金)PM7:00～
ところ 青少年育成センター 2F会議室

三条北ロータリークラブ 会長 齋藤 正様



ただ今御紹介いただきました本年度北ロータリークラブ会長の齋藤正でございます。本日は貴重な時間をお借りしますが、振り返りますと三条クラブの藤田先生がガバナーをされた時に、当時三条クラブに席をおかれまして中條さん、梨本さん、それぞれ会長幹事というお役目で当クラブにお迎えして北ロータリークラブが設立出来た訳で、今3名の女性会員を含めて60名の会員を擁しております。さらに、来年は創立20周年の大きな節目を迎える訳でございますが、他のクラブに少しは近づく事が出来るようになったと、こんな気持ちがございます。大変御指導いただきました三条RCに対しましても、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

さて、ただ今渡邊会長さんからお話がありました様に、我クラブの初代会長の中條さんが2005～6のガバナーノミニーとして、今月3日PM3:00ホテル新潟にて行われましたガバナー総務委員会によ

て確定した訳であります。

7月1日に直前ガバナーより連絡がありまして、三条3クラブの会長に長岡へ来てほしいと言う事で3人揃って出向き、そこで原さんからどうしても三条の3クラブの中よりガバナーの選出をしてほしいという要望がありまして、3クラブの会長とも話し合いの結果中條さんをお願いしたらどうだろうという事で、時を移さず中條さんにそのむねをお話し致しました。なかなかすぐには結論が出ませんでした。中條さんはRCに40年の歩みをしてこられた方で、こんな事から最後の御奉仕が出来るという気持ちもあつた様です。なによりも40年のRCの生活の中で、その大半を過ごした自分を育ててくれた三条RCさんからの力強い御理解と御支援がなければ重責をまっとうする事が出来ないだろう、まずこの事を三条クラブの皆様に御理解いただけるのならやってみようという気持ちになられまして、そのむね渡邊会長さんにお話し致しまして、気持ち良く御理解を賜りまして、中條ガバナーが誕生した訳でございます。ノミニー、エレクト、そしてガバナー、これから一つ一つ段階をふんで行かれる訳であります。3つを1つにして中條さんを支えて行く、そんな決意を固めているところであります。どうか今申し上げました様に、生みの親である三条クラブの皆さんから深い御理解と温かい御支援をいただき、我クラブを歩んで行かせたい、こんな気持ちでありますので、これからも一層の御指導、御理解をお願い致しまして、御挨拶にかえさせていただきます。引き続き、中條さんから決意の程を御挨拶いただきますが、よろしくお願ひ申し上げます。

三条北ロータリークラブ 中條耕二様



大変貴重な時間をちょうだいしてありがとうございます。今程齋藤会長から詳しく御説明いただきました北クラブの中條耕二でございます。

私にとって、三条クラブは古里でございます。野水文治さんの御推薦をいただきまして、昭和39年(1964年)に入会させていただきました。右も左も分からぬ当時に、広岡先輩、渋谷先輩、もちろん藤田パストガバナーに御指導いただき、ちょうど7年経過しておりました。金子左武郎大先輩、歴代会長さんよりお世話いただき、ロータリーの基礎を三条クラブによって作っていただいたのではないかと、今振り返ってみますとその思いを感じているところでございます。おかげ様で、日戸先生の会長の時まで三条クラブに23年間在席させていただきました。藤田先生の下で梨本さんと私とで北クラブが発会し、おかげ様で北クラブも成人式を迎える事が出来、誠に厚く御礼申し上げる次第であります。

ロータリーは大きく変わりまして、一業種が5人であるとか、出席率が昔ほど強く言われぬ様であり

ますが、3,000名いたロータリアンが2,200名という800名の減少であり、原ガバナーの下でクラブ奉仕委員長という役をおおせつかり、なんとしてもこの減少を食い止める様に努力し、おかげ様で2560地区は目途がつき、これも皆様の会員増強のおかげとっております。私はロータリーは“人の輪、人のつながり、宝の山”でないかと思っております。2560地区2,200ロータリアンと友達になり、このロータリーこそ世界に伸ばして行かねばならないと考える次第であります。

三条クラブさんに教わった色々な事を思い出しながら精一杯、一生懸命ガバナーとしての役目を果たす考えであります。今後共よろしく御指導の程お願い致します。

ニコニコBOX

三条北クラブ 中條耕二さん

藤田説量大先輩のあと、図らずもガバナーノミネーに指名され、寝不足の毎日です。健康に注意して三条3クラブの名に恥じないようガンバります。

三条北クラブ 斎藤 正さん

7・13水害で被災された会員みなさんに対して、心からお見舞申し上げます。

三条北クラブ 星野義男さん

初めての三条クラブに参加させていただきます。よろしくお願い致します。

渡邊喜彦さん

北クラブの中條さん、斎藤さん、山上さん、星野さん、御苦勞様です。三条保育所澤所長さん、卓話よろしくお願い致します。

五十嵐昭一さん

藤田説量様、わざわざお見舞いただきありがとうございます。ありがとうございました。

三条保育所澤先生、卓話に期待致します。

熊倉昌平さん

会議所の副会頭を退任させて頂くことになり、ロータリーの会長を終わった時のような気分です。

川又嘉瑞範さん

オーストラリア・メルボルンより孫2人をつれて娘が里帰りしました。約2ヶ月の滞在です。当分我が家がにぎやかです。

高橋 司さん、山田富義さん、杉山幸英さん、船越正夫さん、樺山 仁さん、石塚欣司さん、会田二郎さん、石月良典さん

三条保育所所長澤さん、卓話ありがとうございます。

菊池 渉さん

久々の例会です。暑さ寒さも...の彼岸も近づきました。秋にはBOXに入れる機会が増えますように。

荻根澤隆雄さん

よいことがありました。スマイルボックスに協力いたします。

9月15日分 ￥ 27,000

今年度累計 ￥ 236,000

卓 話

三条保育所 所長 澤 康子様



ただ今ご紹介を頂きました三条保育所の澤でございます。

本日このような機会を与えて頂きましたことを心より厚くお礼申し上げます。

なお、このたびの7・13水害の被害を受けられた皆様には、心よりお見舞いを申し上げ、一日も早い復旧を心より祈

り申し上げます。

さて、保育所の保育につきましては市長が、ホームページなどにもしっかり書いて下さっており、そのとおりでございますので、改めて申し上げるまでもないのでございますが、せっかくこのような機会を頂戴致しましたのでお話をさせて頂き、保育所でどんなことをしているのかご理解を頂けたら幸いです。

なお、子供達を前にして話すことには、多少慣れていると思うのですが、このような場所で、しかも大勢の大人の方を前にして話す機会はほとんどございませんので大変緊張しております。途中で何をお話ししているのかわからなくなってしまうと困りますので、あらかじめ原稿を用意致しました。原稿に目を通しながらお話しさせて頂きますことをどうぞお許し頂きたいと存じます。

それでは、本題に入らせて頂きますが、保育所の保育は厚生労働省により示されます「保育指針」というものを根幹に据えて進められておりますが、この指針が昭和22年に制定されて以来初めて平成2年と12年に相次いで改定されました。改定の背景には、当時、小・中学校でのいじめや、登校拒否、家庭内暴力、校内暴力などが社会問題化していたことがあり、幼児期からの教育や保育にも問題があったのではないかと指摘もあって、幼稚園教育要領とともに大幅にその内容が改定されました。

それまで保育所は学校と同じように、朝、子供が来たときから、何時には絵をかかせて、何時には体育遊びをして、何時にはトイレに行かせて、ご飯を食べさせてなどなど、子供の思いや意向などどこにも反映されず、子供自身は何一つ考える事なく大人が一方向的に敷いたレールの上を指示や命令をされながら大人が望む方向へ背中を押されながら歩かされておられ、それに黙って従う子が“良い子”であり、従わずに反抗するような子は叱ってでも言うことを聞かせようとする、それでもまだ従わない子には、簡単に“問題児”などとレッテルを張ったり、反抗的だなどと言われてしまうことが何の問題ももたれずに何十年と続いて参りました。

今こうして考えると、こういう生活の中で子供に何が育ったというのでしょうか。

子供は、右向け右といえれば右、左向け左といえれば左を向いてくれる訳ですから、大人にとってはどん

なに都合が良くて楽であったかしれませんね。

そんな中で、このように子供を管理する保育が子供の自発性の発達に圧力をかけていたのではないだろうかという指摘があり、「保育は大人が一方的に子供に何かを教えるものではない。保育はくつろいだ雰囲気の中で子供一人一人の欲求や気持ちを十分にくみ、受容に努めながらまず情緒の安定を図り、その上で幼児期の発達の大きな柱である意欲(自発性)と思いやりの心を育てるものである」というふうに変ったのです。

今まで行っていた保育からみれば180度の転換でございませぬ。

そのため、保育の現場は全国的に大混乱を致しました。

何十年もの間に染め込んでしまった“子供に何かを教える。指示や命令をしてやらせる。子供は大人の思いどおりに動くもの”という意識を変えることはとても難しく、まだ以前の保育をそのまま継続している市町村が多い中で、三条市では、今までの保育では、真に生きる力の基礎を身につけた子供は育たないことをしっかり認識した上で、就学まで長いお子さんで6年間もございませぬ。その6年間を子供には何も考えさせず、ただ指示や命令に従わせ、育つべきものも育てずに就学させる訳には行かない。

指針の理念にかなった保育をしっかりと行い、意欲・自発性と思いやりの心を身につけた骨太な子供を育て学校へと送り出そうと所長が立ち上がりました。

しかし、思うは易し、行うは難しでございませぬ。

保育の成果が見えるのは5年後、10年後であり、日々の苦勞の成果が見えて来ない中で、職員の中には、そんな先のことまで考えていられない。自分達はこの時期だけを何とか無事に過ごせればよいのではないか。そんな難しいことはやりたくないと考えてしまう者も出て参りましたが、所長たちが結束をしてそんな職員の説得に当たり、

- ・一人一人の欲求や気持ちをくむとは？
- ・受容するとは？
- ・くつろいだ雰囲気とはどういうこと？
- ・情緒の安定を図るとはどうすること？

など、指針の内容を今までの保育と一つ一つ照らし合わせながら、具体的に共通理解を図る努力を続けましたが、職員一人一人の意識のレベルというものは目には見えてはきまませんので、“理解した。分かった”という人も実際にはよく理解できていなかったりして保育がなかなか変わって行かない中で、こういう保育をすでに長く実践されており、子供が確実に変わるという実証をお持ちであった元東京都立保育園長で、聖心女子大や大妻女子大でも教鞭を取られた本吉圓子先生のご指導を三条市全体でお受けすることになりました。

小学校における学級崩壊などもまだ問題になっておりますが、幼児期の育ち方に関係があると思っております。

以前、大阪の小学校の学級崩壊の様子をNHKテ

レビで取り上げていましたが、先生が、“あのね、学校の教室はね、みんな腰掛けて先生の話を聞いて勉強をすることなのですよ”と何回言っても全然子供が言うことを聞かないのですね。

そこで、走り回る子供達に途方に暮れた先生が、一番動き回る子をだきしめたのです。すると、その子がベターっと先生にくっついて来たというのです。

「あっ、もしかしたら甘えが足りないのかもしれない。それで落ち着かないのかもしれない」と考えて次々と走り回る子供達をだきしめたら、やっと落ち着いて来たというものでした。

抱っこをすると抱き癖がつくなどと従来言われて来ましたが、抱き癖などということはありません。

本当に、抱っこをしたら永久に抱かれていたと言う人がいるのでしょうか。

抱っこイコール甘やかし、抱き癖がつくものではありません。

抱けば、抱くほど自分で自律して「もういい」といつて離れて行きます。

それまで抱いて頂きたいのです。

子供は抱けば抱くほど優しい子になる。

かわいがればかわいがるだけいい子になるのです。

十分かわいがって、気持ちを満たしてあげてから、目標に対して最短距離を歩かせるのではなく、遠回りをして、失敗を通してあらゆる豊かな体験をさせて行く。

その体験の中で、自主性や集中力、意欲、思いやりの心など「生きる力」の土台となるものを育てるのです。

今のお母さんは、失敗を恐れ過ぎているように思っています。

子供に失敗させることを恐れて、子供の先回りをして失敗をさせないように、つまづきそうな石ころをどけてしまう。そのことが子供の生きる力を奪ってしまうのですね。

大人が、指示や命令をすれば言われた通りにできる子供にはなりますが、ただ、大人に従っているだけで、子供自身には何の力もつきませぬ。

いくら教えてもその場限りで、子供が失敗を通して覚えることにはかなわないのです。失敗をどう成功に変えて行くか、そのプロセスこそが生きる力をつけてくれるのです。失敗を見守ることはなかなか難しいのですが、子供の将来を考えるならそれこそが本当の愛情であり、自分で考えて自分の行動に責任をもつ子を育てるものであります。

現代は、お母さんと子供が狭い密室の中で一日24時間密着して子育てされている場合が多く、その間中お母さんに「ああしてはだめよ」「これはあぶないからだめよ」「そっちへいくとケガをするよ」「こうしなさい」などと、指示や命令ばかりをされて育つ

お子さんが増えています。むしろ、親は、自分の思うようにさせることが子育てと考えている部分もあります。今までは保育所でもそうでした。

子供も利口です。

いつもいつも言われ続けると、どうすれば言われなくてすむか？親や保育者の顔色や表情を見て、いつも機嫌を伺いながら大人の意向に合わせて“いい子”を演じてしまう子になってしまいます。

そして本心とは全く違う部分で“いい子”を演じ続けてしまい、押し込められた本心の我慢が限界を超えたときにそれが爆発し、不幸な事件やいじめ、引きこもりへとつながって行くことを指摘する専門家も多いのです。

大人は自分の価値観を押し付けて、自分の思うようにさせようとするをまず、やめましょう。保育所でも子供に指示や命令をして何かをやらせることを一切やめました。

このようなご指導をいただき、三条の市立保育所では15の保育所で一人一人を心から愛して、その子のありのままの姿を丸ごと受け止めることで、子供自身もいつも本心で接してくれるような関係を築き上げながら、その子の発達にあったいい対応をすることで、真に生きる力を身につけた、キラキラと輝く目と、弾けるような笑顔を見せてくれる子を育てたいと努力を続けているところでございます。

私の三条保育所では、こういう保育を始めてから3年目でございますが、3年前に赴任したとき入所式なのに人の話が聞けないでふらふら歩き回ったり、喧嘩早かったり、乱暴をする子が居たり、一言で申し上げると子供達が荒れているという印象でございましたが、今申し上げたようなことを全職員で徹底して行いました。

どんな子も否定的に見ないで温かいまなざしを向けること。

大好きだよと心から伝えること。

子供が話しかけてきたときには、どんな状況であっても最優先で、耳を傾けその思いに最後まで真摯にこたえてあげること。

どの子も無視したり、拒絶したりしないこと、など心からの愛しているメッセージを伝えることです。

職員も最初は半信半疑のようでしたが、子供が見る見る変わって行くのです。

私も、正直信じられない思いでございました。

子供は、“よく自分の話を聞いてくれる大人の言うことはこんなにもしっかり聞いてくれるものなんだ”ということは、今までどれだけ大人がいい加減にしてきたか？

大きな衝撃でございました。

そこで子供にありのままを話し、どれだけ大人が

一方的で、勝手だったか？よく話し子供達に心から詫び、子供達も今までこんな事を言われる事はなかったので、とても真剣に聞きどんなところがいやだったか、話してくれました。

年長さんくらいになると、本当にドキッとするような事を言います。

その一つ一つを謙虚に受け止め改めて参りました。

今、保育所に見学に来られる保育者や未就児のお母様方が口をそろえておっしゃる事は、どうしてこの保育所はこんなに静かなのですか？子供達の話す声も穏やかだし、保育者の声もほとんど聞こえない。こんなに静かでも、保育はされているのですね。

そして、子供達がとても優しいですね……目がキラキラと輝いています。

私にとりましては、どんな言葉にも勝る賛辞でございます。

指示や命令の言葉がないというだけで、こんなに静かになるのです。

自分が愛されて、満たされていれば子供はとことん優しくできるのです。

自分の心が満たされたいのに、小さい子には優しくねなどといってもできるわけがございません。

幼児期にどうしても育てておきたい2本の柱のうちのもう1本“おもいやりの心”は自分が愛される事で、優しくされる事でこのように発揮できる事がとてもよくわかったのです。

まだ、市全体で足並みそろえて進むところまでは遠く及びませんが、同じ方向に向いて歩み始めていることは確かでございます。

本吉先生は、不幸にして三条市において小学生による傷害事件の発生した翌日、“人間を育てる保育”を市全体でされる様になれば、この様な事件は発生しません、というコメントをお寄せ下さいました。

先日、長崎県佐世保市の小学6年生の女の子の精神鑑定の結果も公表されましたが、彼女も「家ではとてもいい子だった」と両親がコメントしていましたが、精神的に非常に未成熟な部分があるとの事と、コミュニケーションの能力の欠如を指摘されておりました。

これ以上、この様な子供達を出さない為にも、私達三条保育所の役割がとても重要である事を肝に銘じ、更に邁進したいと存じます。

子供達をピーマンに例えれば、色形はあまり立派でないけれど、中身にギッシリ種がつまっているピーマンの様な子供達に成長してもらいたいと念じております。その日を目指して、更に進んで参りたいと存じます。

ご静聴いただきありがとうございました。

10月の 行事予定

 三条ロータリークラブ例会日

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4 三条南RC 施設見学会 12:30~ 於:さんじょう鍛冶道場	5 三条北RC 夜例会「還暦を祝う会」 18:30~ 於:おゝ乃	6  三条RC 施設見学会 12:30~ 於:三条テクノスクール	7	8	9
10	11 三条南RC 休会	12 三条北RC 「米山月間」 GSE招待	13  三条RC 「GSE歓迎例会」	14	15	16 地区大会 於:ホテルイタリア軒
17 地区大会 於:ホテル新潟	18 三条南RC 27日(水) 公式訪問振替	19 三条北RC 公式訪問前の クラブ協議会	20  三条RC クラブ・フォーラム 「地区大会報告」	21	22	23
24 / 31	25 三条南RC 「米山月間」 米山奨学生 孫 璐さん (新潟大学大学院経済学研究科)	26 三条北RC 27日(水) 公式訪問振替	27  横山ガバナー 公式訪問(3RC合同) 12:30~ 於:VIP	28	29	30

近隣RC例会変更のお知らせ

- 吉田RC 10月8日(金)早朝例会
- 10月15日(金)夜例会
- 加茂RC 10月14日(木)職場例会

次週例会 10月6日 職場例会
於:テクノスクール

次々週例会 10月13日 卓話 GSE歓迎例会

